

専門演習Ⅳ（社会言語学）

単位数	2
開講時期	後期

授業の目的および概要

言語の社会的特性の探求

社会言語学は、話者が育った文化や社会環境、ことばの使用場面、話者の心理や意図など、ことばの使用に影響を与える様々な要因に光を当てながら、人間の言語能力のダイナミックな特性を解明しようという学問である。

英語圏社会における多様な言語(特に英語の)状況を中心に、言語運用上のバリエーションや変化のしくみを理解し、その原動力となる様々な社会・心理的要因について研究する。英米社会を土台に構築されてきた今日の社会言語学理論を、日本社会における類似の言語事象にあてはめ検証・考察もしていく。さらには、世界中の多くの大学でテキストとして読まれている社会言語学の洋書(入門書)を教科書として、英語や日本語だけでなく世界中の様々な言語・文化に関する豊かな見識を身につける。

2年間のゼミ活動(専門演習Ⅰ～Ⅳ)を通して、以下のような能力の向上を図る。

① 英語を読む力(多読を通して、概要・著者の主張・主張の根拠となる具体的事例などの把握)

② 日本語・英語の両言語でプレゼンテーションおよびディスカッションができる能力

③ 発展的調査(図書館での文献リサーチや言語データ収集のためのフィールドワーク)を通して問題を発見し解決する能力

特に演習後に設けられている「卒業研究Ⅱ」では、各自の卒業研究プロジェクトに関する進捗報告およびデータセッションを交代制で行い、中間期発表会(9月)や研究成果発表会(12月～1月)なども予定している。

授業方法

テキストの残りの章や各学生の卒研テーマに関する発表を交代制で行う。

到達目標

① 2年間のゼミ活動を通して、独自性豊かな研究テーマを見つけ、最終的には誰にでも胸を張って自慢できるような卒業研究を仕上げる。大学院レベルに相当する質の高い研究を目指す。

② 与えられたテーマにおける課題の発見、課題解決へ向けての調査・資料収集、資料の整理と分析、研究成果のプレゼンテーション(日本語と英語の両言語で)、課題への解答の総括(学術論文の執筆)など、大学生が卒業前にしっかりと身に付けておくべき「社会人スキル」を磨くこと。

③ 社会言語学の洋書や英語論文の講読を通して、専門分野における英語のリーディング能力を高めること。

授業計画

1. オリエンテーション、前期のまとめ
- 2～7. 多言語主義社会
- 8～9. 第一言語習得
- 10～15. 卒業研究プロジェクトに関する成果発表会

成績評価方法

出席状況、学生発表、クラス討議への貢献度、スーパー英語課題で総合的に評価。

準備学習

出された課題を的確に行うこと。発表が当たっていない場合でも教科書や配布資料をしっかりと読み、議論に参加できるように自己の意見をまとめておくこと。

教科書参考書

(教科書:全員必須) Bonvillain, N. (2013). *Language, Culture and Communication*. 7th Edition. Prentice Hall.

参考文献: ① P. トラッドギル著『言語と社会』岩波書店、② 日比谷潤子(編著)(2012)『はじめて学ぶ社会言語学』ミネルヴァ書房、③『応用言語学事典』研究社、④ Holmes, J., & Hazen, K. (eds.) (2014) *Research Methods in Sociolinguistics: A Practical Guide*. Wiley Blackwell.

注意事項

授業はテキストを読んできているという前提で進めるので、発表が当たっていない学生も毎時間丁寧な予習(テキストの講読)を欠かさぬこと。